クビアカツヤカミキリの被害甚大！
市独自の対策と報奨金の創設を

次の外来生物こそ
水際でくい止めたい!



沼田　育男
（ぬまた やすお）

録画映像
はこちら

熊本地震にみる命を救う避難所の運営ついて

停電時の避難所では電気と水の確保こそ避難者の命を左右する。本市での対策は。

市民生活部長　防災備蓄倉庫には発電機を配備している。水についてはペットボトルの飲料水の備蓄と協定に基づく事業者からの支援や、他自治体への給水車出動要請により、確保を図る。

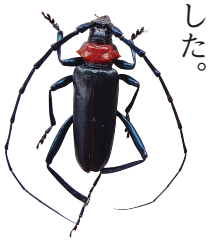
被災地では改めて災害用井戸の重要性が注目されている。本市でも指定避難所の敷地内への設置を強く要望するが市長の見解は。

市長　災害用井戸の新設は国の災害時地下水利用ガイドラインに従わなければならない。重要性を考慮しつつ、入念な調査を行い、周辺地域への影響に配慮しながら慎重に検討する。

クビアカツヤカミキリの被害状況について

直近3年間の被害状況について。

経済環境部長　令和5年に市内で初めて確認され、桜やハナモモに被害が多く、6年度が3本、7年度が210本、8年度は8月現在43本で農作物への被害や倒木による人的被害はない。



被害拡大を防ぐ具体策について。

経済環境部長　広報結城や市HPに対応を掲載。公共施設は対象樹木の巡視、ネット巻きや薬剤での防除を実施するほか捕殺した外来カミキリムシ10匹の持ち込みに対し、記念品等を渡している。また、職員対象に実技講習を実施した。

民有地の樹木にも被害が出ているが、民有地への支援として薬剤散布、ネット巻き、伐採と焼却処分等のサービスや、市独自の対策や報奨金の創設を検討し、その根絶を図ってはどうか。

経済環境部長　国・県の対応方針と動向及び近隣自治体の状況や専門家の意見も踏まえ、本市に適した市独自の支援のあり方を研究していく。

※一般質問の掲載記事は、発言議員本人からの寄稿によるものです。